

ユーザーレポート

Project Management with Web I



日産車体株式会社



プロジェクト管理ソフトの導入・定着により 新車生産設備準備プロジェクトの 日程とコストを見える化

日産車体株式会社は、開発から生産までを担う完成車メーカーとして、キャラバン、AD、ADエキスパート、シビリアン等の小型商用車をはじめ、エルグランド、セレナ、ウイングロード、輸出専用高級スポーツユーティリティビークル インフィニティFX など、年間30万台以上を生産するほか、救急車やリフトバンなどの特装車両の架装を含め、多種多様な車輛の開発と生産を手がけています。

新車を生産する上で必要な多種にわたる生産設備の準備プロジェクトに関し、日産車体・車体技術部では、ウェブアイのPREGAREと工程'sを導入し、業務に定着させることで「工程とコストの見える化」の取組みを行いました。

日産車体 車体技術部の佐藤利美氏が、ウェブアイユーザー会場で講演された内容からその取組みを紹介します。

創業	1941年7月1日	
資本金	79億400万円	
従業員数	3,258人 (08/3現在)	
売上高	6,127億円 (07年度実績)	
生産規模	生産車種11車種 生産台数 35.8万台 (07年度実績) (3.0万台/月、1,500台/日)	



日産車体(株)
車体技術部
佐藤利美様

日程、進捗、予実、負荷、コストを一元管理することが必要だ！

部内では、新車生産設備の開発プロジェクトについて次のような課題が顕在化してきており、対策を講じる必要がありました。

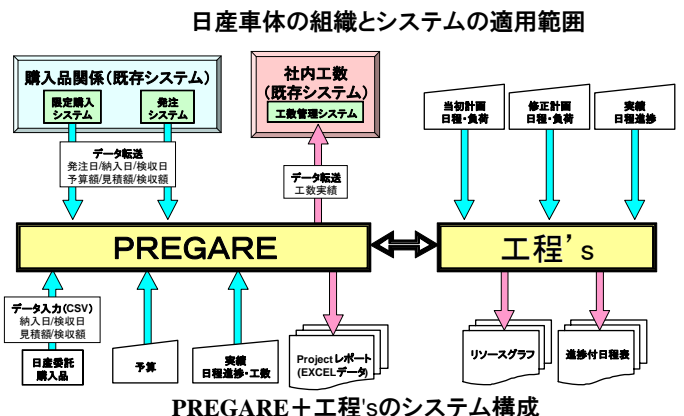
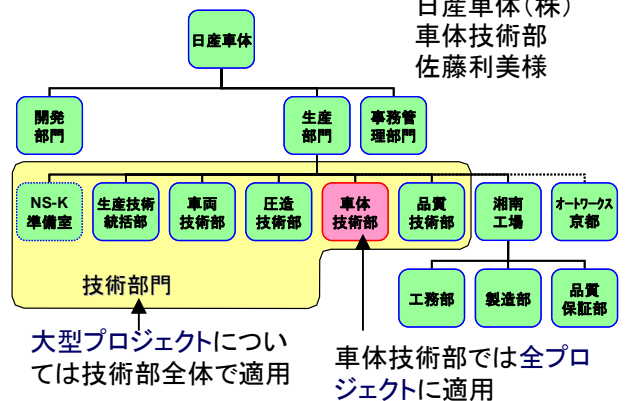
- 進捗遅れや仕様変更等による再計画が迅速に行えない
- 人の負荷状況が把握できていない為、要員の過不足が見えず、計画の実行可否判断が難しい
- 進捗状況が把握できていない。また、遅れが発生した場合の後続作業へのインパクトが評価できない
- 日程計画と予算の予実差異が把握できていない
- プロジェクトごとの採算が見えない

計画にコストを連動させて一元的に管理することで、これらの課題を解決し、プロジェクトに関するリスク対応も迅速に行えるようにしなければならぬと考え、「日程と費用の見える管理」に取り組むことにしました。

プロジェクトの日程・進捗・実績・負荷・費用を効率的に一元管理するために、複数のソフトウェアを調査、検討した結果、ウェブアイ社のPREGAREと工程'sをプロジェクト管理ツールとして選定・導入しました。

私の所属する車体技術部では、本システムを全プロジェクトに適用することに決めましたが、技術部門全体では、段階的に適用する必要があると考え、大型のプロジェクトを対象に限定することにしました。

また、プロジェクトはその上申前の検討期間も含め、プロジェクトの検討段階から完了までを管理期間として設定し、早い段階からプロジェクトを把握管理するようにしました。



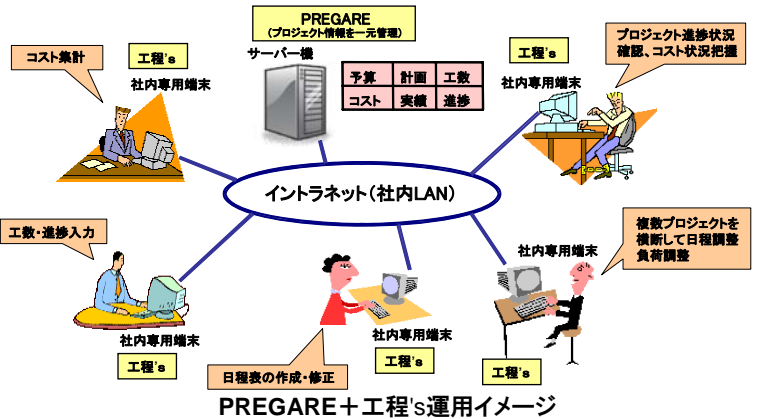
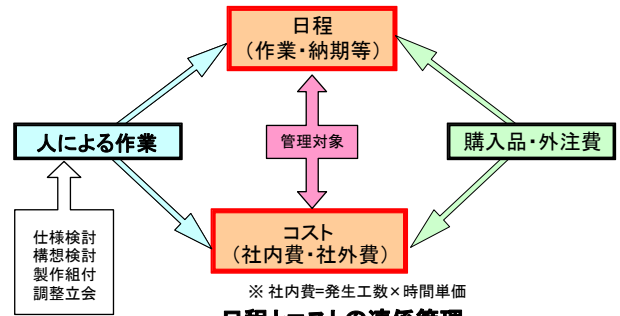
PREGAREと工程'sで計画とコストを一元管理

プロジェクトの状況判断を容易に

PREGAREと工程'sにより工程情報とコスト情報を一元管理することで、プロジェクトの日程(進捗・負荷)とコストの状況を迅速かつ総合的に判断できるようになりました。PREGAREと工程'sは次の処理を受け持っています。

- 【工程's】 開発計画の作成・更新
作業進捗の入力
負荷の確認・調整
- 【PREGARE】 予算の策定
コストの管理(社内外コストの集計)
計画とコストの予実管理
計画進捗・実績の管理

項目	日程	コスト		問題点への解決策
		社内費	社外費	
計画立案	◎	◎	◎	作業の関連付けが容易に出来る
計画(予算)と実績の対比	◎	◎	◎	計画/実績差異が常に把握可能
進捗確認(発生状況)	◎	◎	◎	進捗が常に把握可能
修正計画	◎	◎	—	変更計画が容易に出来る



導入したシステムを定着させるために表計算ソフトによる工程表作成を禁止

システム定着のために様々な活動を実施

導入したシステムを社内に定着させ、有効に活用するために、様々な活動を実施しました。

共通ツールによる計画の均質化と共有を実現

利用者に対してPREGAREと工程'sのトレーニングを行うと共に、マニュアルを作成し、社内のHPに掲載しました。また、新規の日程表については工程'sで作成されたもののみを承認することにし、表計算ソフトによるものは差し戻しとするルールにしました。それでも工程'sで作成しない人については聞き込み調査を行い、説得あるいは必要な支援を行うことで、工程'sへの移行を促進しました。(右図上)

これにより、共通したフォーマットで見やすい工程表が作成されるだけでなく、資源負荷の把握が可能になり、その情報をPREGAREに取り込むことで、全社レベルでの計画情報の共有を実現することができました。

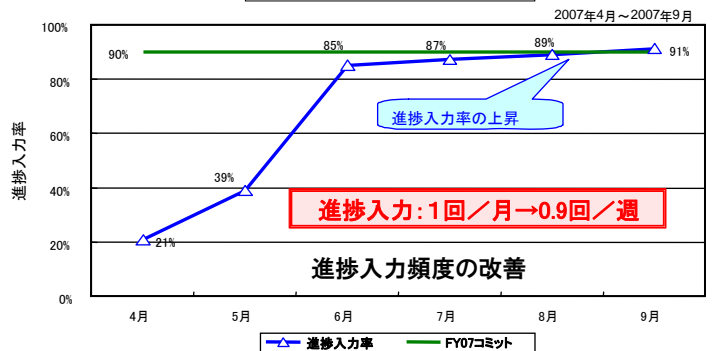
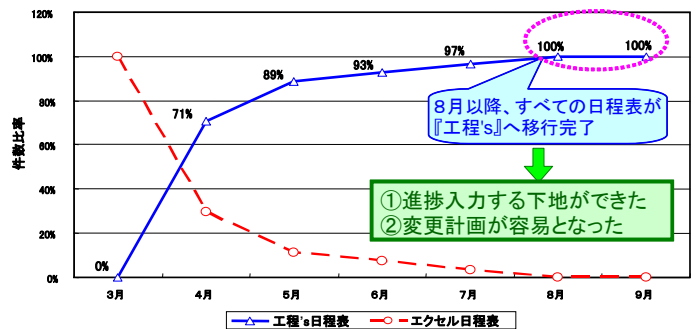
進捗入力の定期化により、最新の状況を把握

毎週月曜日に前週までの進捗を入力するよう依頼し、計画の最終更新日からの進捗入力の有無を確認するようにしました。未入力者に対してはEメールやミーティングによりフォローを行い、遅れが発生している場合には、進捗確認会(週1回実施)で遅れの原因を明確にし、迅速にアクションを取るようになりました。これまで月1回の更新であったものが毎週更新されるようになり、プロジェクトのリスクに対し早期に予見・対処することが可能になりました。

プロジェクトのコストを迅速に把握

コストについては、社内コストだけでなく、社内の既存システムと連携することで、社外費用を取り込み、プロジェクトに関する実績コストを当初の予算と比較して把握することが可能になりました。常に最新のコスト発生状況が把握できるようになり、作業の進捗だけでなくコスト面での管理も容易に行えるようになりました。

工程表作成ツールの移行:『表計算ソフト』⇒『工程's』 2007年3月~2007年9月



株式会社ウェブアイ

〒135-8071東京都江東区有明3-1-22 TFTビル東館9F
電話: 03-3570-2391 http://www.webi.co.jp/

PREGARE

検索